

見守り機器を活用した業務改善による 職員の負担の軽減

～主観的なケアから、共通指標に基づくチームケアへ～

社会福祉法人 奥湯村福社会

特別養護老人ホーム 奥湯村園

事業所概要



施設名	社会福祉法人 奥湯村福祉会 特別養護老人ホーム 奥湯村園
施設種別	介護老人福祉施設
定員	特養入所者：54名 ショートステイ：16床
開設日	1994年4月1日
所在地	〒400-0071 甲府市羽黒町1657-5

伴走支援に応募した動機

応募動機

職員一人ひとりが自信と誇りを持ち、自律的に動ける組織になりたい



現在、当事業所はアナログ文化や業務の属人化といった課題に直面しておりそのしわ寄せが、リーダー層の過度な負担や、現場の「言われたことだけをやる」風土に繋がっている



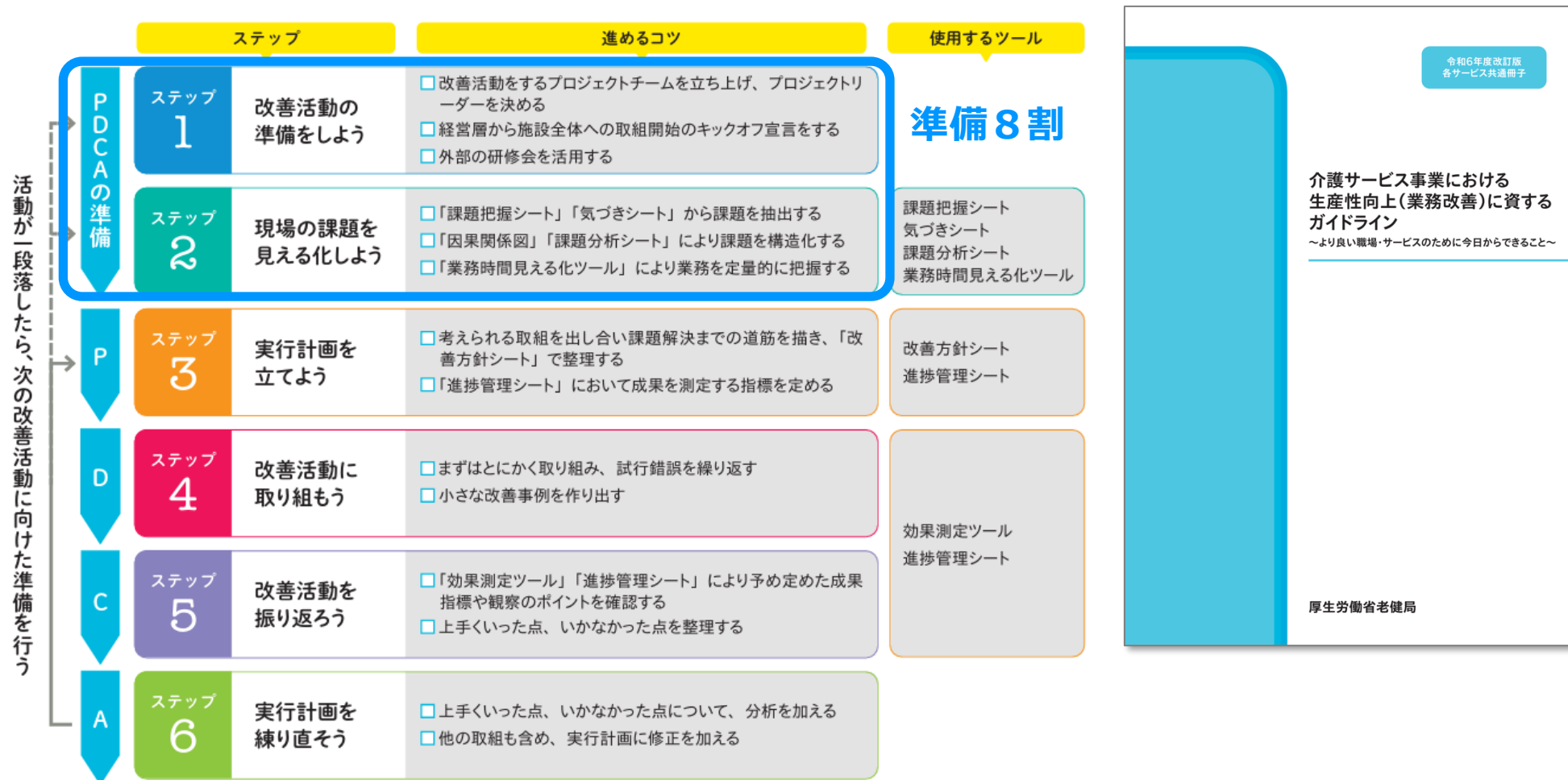
この現状を打破するためには、単なるシステムの導入だけではなく「業務の標準化」「二度手間を省く効率化」などアナログも含めた業務改善が必要だと思う



現場の負担を最小限に抑えつつ、着実に成功体験を積み重ねることでトップと現場が一丸となって全員が前を向ける「質の高い介護サービス」の基盤を構築したいと考え応募した

取組み方針

今回は、厚生労働省が2025年8月に改訂した『生産性向上ガイドライン』（共通冊子）の **ステップ 1～6** に従って取組みを進めた（特に、「準備 8割」を重要視した）



ステップ 1



令和6年度改訂版
各サービス共通冊子

介護サービス事業における
生産性向上(業務改善)に資する
ガイドライン
～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

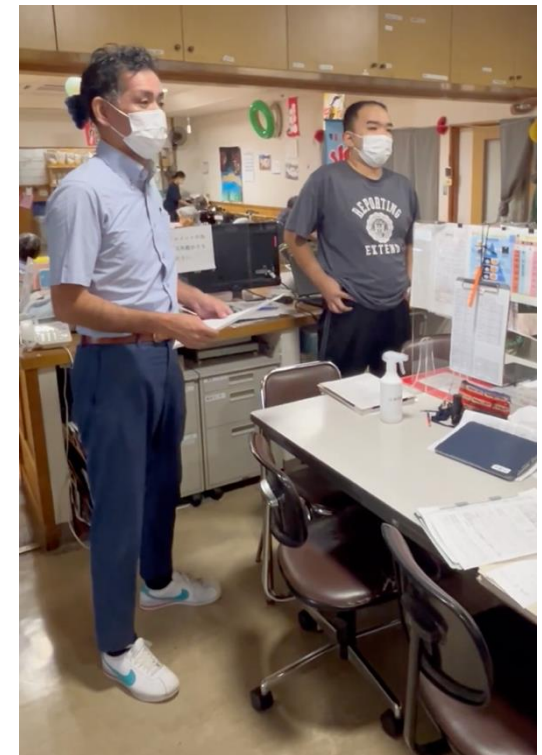
ステップ1：改善活動の準備をしよう

実施したこと

生産性向上の取組みを推進するにあたって、プロジェクトチームを結成した

＜施設長発で、職員と共有した内容＞

- 奥湯村園では、職員不足が慢性的な課題となっており
職員の負担がかなり大きく、サービスの質の維持・向上が難しい現状がある
- そこで取組では、職員の負担軽減を図り
利用者へのサービスの質を高め職員のやりがいのある施設を目指したい
- そのために、職員が日頃感じている気づきから自分たちが向き合う課題を
絞り取組を行なって一緒に良い職場を作りましょう！



キックオフ宣言の場面

ステップ2



令和6年度改訂版
各サービス共通冊子

介護サービス事業における 生産性向上(業務改善)に資する ガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

ステップ2：現場の課題を見える化しよう

対話から見えてきたこと

対話から明確になった、具体的な課題

- **【食事】 食事介助の遅れで、その後の業務全体が遅れる**
 - ・ トイレ誘導や就寝介助まで繋がるので少しの遅れが負担となっている
 - ・ 職員同士声掛けあっているが、どの職員も手が空いていない
- **【入浴】 入浴業務は時間が押してしまう**
 - ・ 機械浴と中間浴が両方ある火曜日・金曜日が特に大変
 - ・ 時間がかかる利用者だと焦る
- **【見守り】 センサーコール対応で行かなくていいのか、優先順位の判断に困る**
 - ・ 体動でセンサーが鳴ることがあり、行かなくてもよかったと思うことがある（訪室の空振り）
 - ・ センサーが同時に鳴ることもあるので、優先順位の判断がつかず、対応が遅れることがある

ステップ3



令和6年度改訂版
各サービス共通冊子

介護サービス事業における
生産性向上(業務改善)に資する
ガイドライン
～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

ステップ3：実行計画を立てよう

実施したこと

ありたい姿を実現するためにアプローチ（仮説）を立てた

ありたい姿

- 職員が自信を持って前向きに働く職場にしたい
- 「質の高い介護サービス」を提供していく職場を目指したい

課題

- 食事介助の遅れで、その後の業務全体が遅れる
- 入浴業務は時間が押してしまう
- 見守りはセンサーコール対応で行かなくていいのか、優先順位の判断に困る

アプローチ

- 食事・入浴：1日の業務流れの見直し
- 見守り：センサー・カメラを新規導入
- マスターラインの作成（業務流れ標準化）
- センサー・コール対応優先順位目安表
- 各業務の適正時間の確保
- 訪室判断基準（優先順位、カメラ確認など）
- 現状にあった業務組み合わせ

ステップ3：実行計画を立てよう

仮説の検証（アクションを起こす前に現状のデータを測定）

【1日の業務流れ】

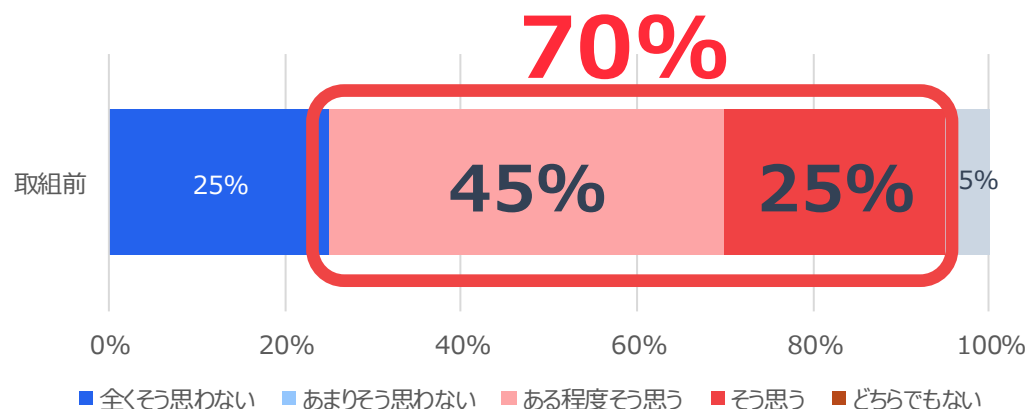
- ・ 食事や入浴業務が押し
他の業務にも影響が出ている

業務	課題を感じている 職員の割合
食事	60%
入浴	55%
見守り	55%

【職員の精神的疲弊】

- ・ いつも忙しくて疲弊している

いつも忙しくて疲弊しているの割合



ステップ4



令和6年度改訂版
各サービス共通冊子

介護サービス事業における生産性向上(業務改善)に資するガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

ステップ4：改善活動に取り組もう

導入を決めたテクノロジー

●商品名：眠りスキャン（眠りスキャンeye含む）

●選定理由

- ・ 介護ソフトとの連携があること
- ・ 通信環境（Wi-Fi）の整備も含め、予算の範囲内で導入可能であること
- ・ センサーと利用者の状態が必ずしも適合していないと感じる場面もあるため発報のタイミングを「覚醒」「起き上がり」「離床」「バイタル」など、利用者ごとに合わせて設定できることも重視した
- ・ センサーが鳴った際に「訪室しなくてもよかった」と感じることや、「最優先で訪室すべき利用者が誰なのか」が分からず、すぐに動けない場面もあったため居室の様子を確認できるカメラも選定した



眠りスキャン と 眠りスキャンeye

ステップ4：改善活動に取り組もう

実施したこと

カメラ・コール設置について

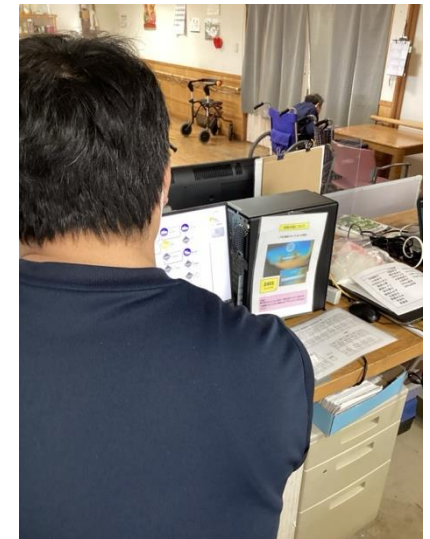
● 転倒リスク・安否確認の重要性の定義を見える化

【転倒リスク状態の定義】

- 非常に高いとは：フリー歩行すれば必ず転倒する利用者
- 高いとは：フリー歩行で転倒の可能性が高い利用者
車椅子へうまく移乗できない利用者
- 低いとは：それ以外の利用者

【安否確認の重要性の定義】

- 非常に高いとは：看取り期の利用者
日中・夜間共に安否確認が必要な利用者
コロナ等の感染症にかかっている利用者
- 高いとは：準看取りの利用者（亡くなっても救急搬送しない）
- 普通とは：それ以外の利用者



職員がデータを見ている様子

ステップ4：改善活動に取り組もう

実施したこと

カメラ・コール設置について

- 設置基準・ルール、訪室の優先順位を利用者アセスメントに合わせ詳細に見える化

利用者名	起き上がる頻度	立ち上がる頻度	センサー導入状況	センサー感度	センサー発報通知	訪室空振り(誤報)	訪室が遅くなる(通知が遅い)	発報通知の際訪室時のよくある状況	訪室が必要な状態(理想)	理想形に対応できる機能	理想形に対応するためのカメラ有無	カメラでの確認ポイント	訪室の優先順位	ADL状態	転倒・転落リスク	安否確認の重要性	転倒・安否確認に関する訪室基準	転倒・安否確認のルール	この方に必要だと思われる機能1	この方に必要だと思われる機能2	この方に必要だと思われる機能3	備考欄
	とても多い							端座位で	端座位で			センサー反応時							センサーによるバイタル把握	カメラによる状況把握		センサー付きベット設置 (CATCHⅢ)
	多い																		センサーによるバイタル把握	カメラによる状況把握		センサー付きベット設置 (CATCHⅢ)
	とても少ない																		センサーによるバイタル把握	カメラによる状況把握		フットセンサー設置

- ① 利用者
- ② 起き上がり・立ち上がりの頻度
- ③ センサー：導入状況、感度、発報通知
- ④ 訪室：空振り（誤報）、遅くなる、（通知が遅い）
- ⑤ 発報通知の際訪室時のよくある状況
- ⑥ 訪室が必要な状態（理想）、対応できる機能、対応するためのカメラ有無
- ⑦ カメラでの確認ポイント
- ⑧ 訪室の優先順位
- ⑨ 利用者の状態：ADL、転倒・転落リスク
- ⑩ 安否・転倒：確認の重要性、訪室の基準、確認のルール
- ⑪ 必要だと思われる機能：1・2・3
- ⑫ 備考欄

ステップ4：改善活動に取り組もう

実施したこと

優先順位の目安について

● 業務・各出勤シフトの役割の見える化・マスターラインの作成

時間	早番 (リーダー)	早番 (火・金)	早番 (火・金)	日勤③ (嘱託)	パート (月・木) (火・金)	日勤 (派遣) (月・木) (火・金)	日勤 (派遣) (月・木) (火・金)	日勤 (パート)	用務員 K様	用務員 k様・Y様	遅番 (リーダー) 月・水・木・ 土・日	遅番 月・水・木・ 土・日	遅番 火・金	遅番 火・金	夜勤 A	夜勤 B	夜勤 C
9:00	9:10	トイレ誘導	入浴介助	入浴介助	入浴後の 整髪・整容	シーツ交換 入浴介助	中間浴 入浴介助	中間浴 入浴介助		水曜日： シーツ交換	洗濯				臥床介助	臥床介助	ホール対応
9:10	9:20														臥床介助	臥床介助	ホール対応
9:20	9:30														臥床介助	臥床介助	ホール対応
9:30	9:40																
9:40	9:50	ホール 見守り・ コール対応	入浴介助	入浴介助	入浴後の 整髪・整容	シーツ交換 入浴介助	中間浴 入浴介助	中間浴 入浴介助		水曜日： シーツ交換	洗濯						
9:50	10:00	ホール 見守り・ コール対応	入浴介助	入浴介助	入浴後の 整髪・整容	シーツ交換 入浴介助	中間浴 入浴介助	中間浴 入浴介助	ショート 定期荷物 チェック	水曜日： シーツ交換	洗濯						
10:00	10:10	牛乳・お茶 配膳し 介助	入浴介助	入浴介助	入浴後の 整髪・整容	シーツ交換 入浴介助	中間浴 入浴介助	中間浴 入浴介助	ショート 定期荷物 チェック	水曜日： シーツ交換	洗濯	居室 利用者の 水分介助	居室 利用者の 水分介助	入浴者の 誘導	利用者の 水分介助		
10:10	10:20	牛乳・お茶 配膳し 介助	入浴介助	入浴介助	入浴後の 整髪・整容	シーツ交換 入浴介助	中間浴 入浴介助	中間浴 入浴介助	ショート 定期荷物 チェック	水曜日： シーツ交換	洗濯	居室 利用者の 水分介助	居室 利用者の 水分介助	入浴後の 整髪・整容 介助	ホール・ コール対応		
10:20	10:30	下膳	入浴介助	入浴介助	休憩	休憩	中間浴 入浴介助	中間浴 入浴介助	水曜日： 歯科受診 対応	水曜日： シーツ交換	洗濯	居室 利用者の 水分介助	居室 利用者の 水分介助	入浴後の 整髪・整容 介助	ホール・ コール対応		

- ① 10分ごとに各業務を見える化
- ② 勤務シフトによっては曜日で業務が変わるため、勤務シフト役割だけでなく、曜日毎で見える化

ステップ5



令和6年度改訂版
各サービス共通冊子

介護サービス事業における
生産性向上(業務改善)に資する
ガイドライン
～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果①

「課題抽出アンケート」(生産性向上くん®)にて課題のあった業務

課題項目	実施前	実施後	比較
食事に課題	60%	23%	37%改善
入浴に課題	55%	23%	22%改善
見守りに課題	55%	19%	36%改善

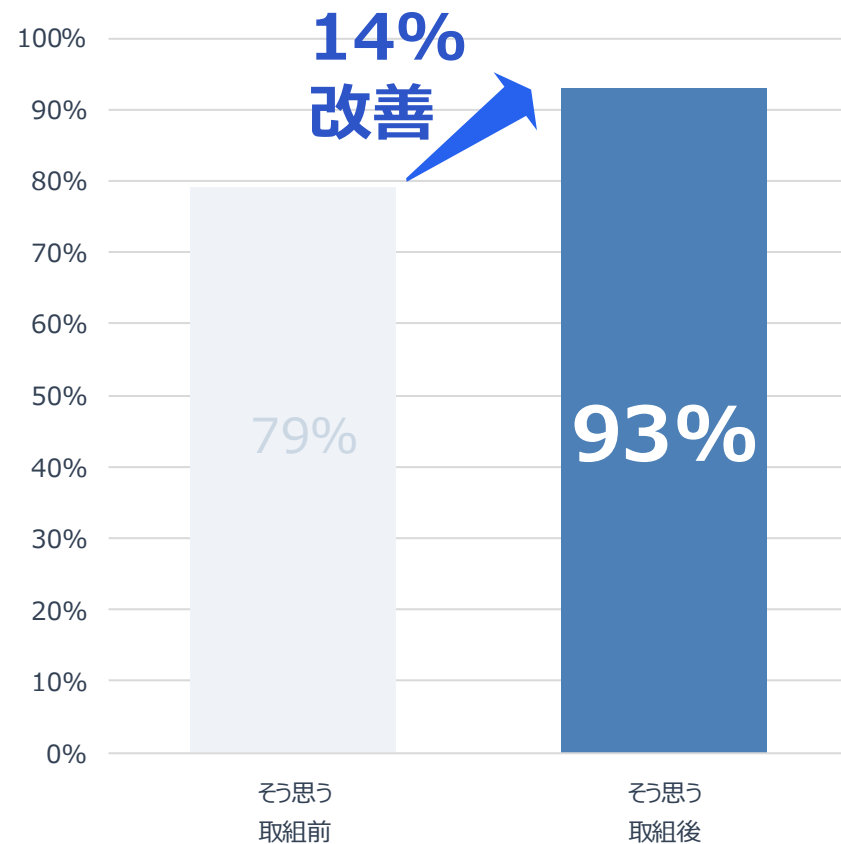
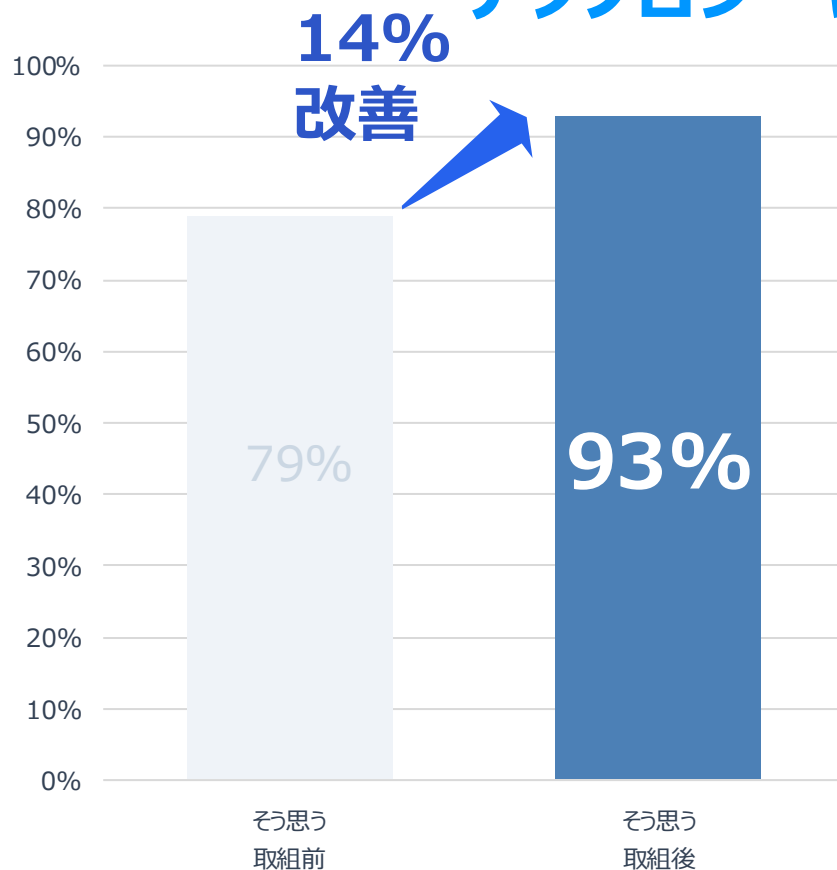
※各割合を四捨五入して表示しているため、合計が必ずしも100%にならない場合があります

ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果⑤

テクノロジーは業務改善に効果的に使えるもの
であると思いますか？

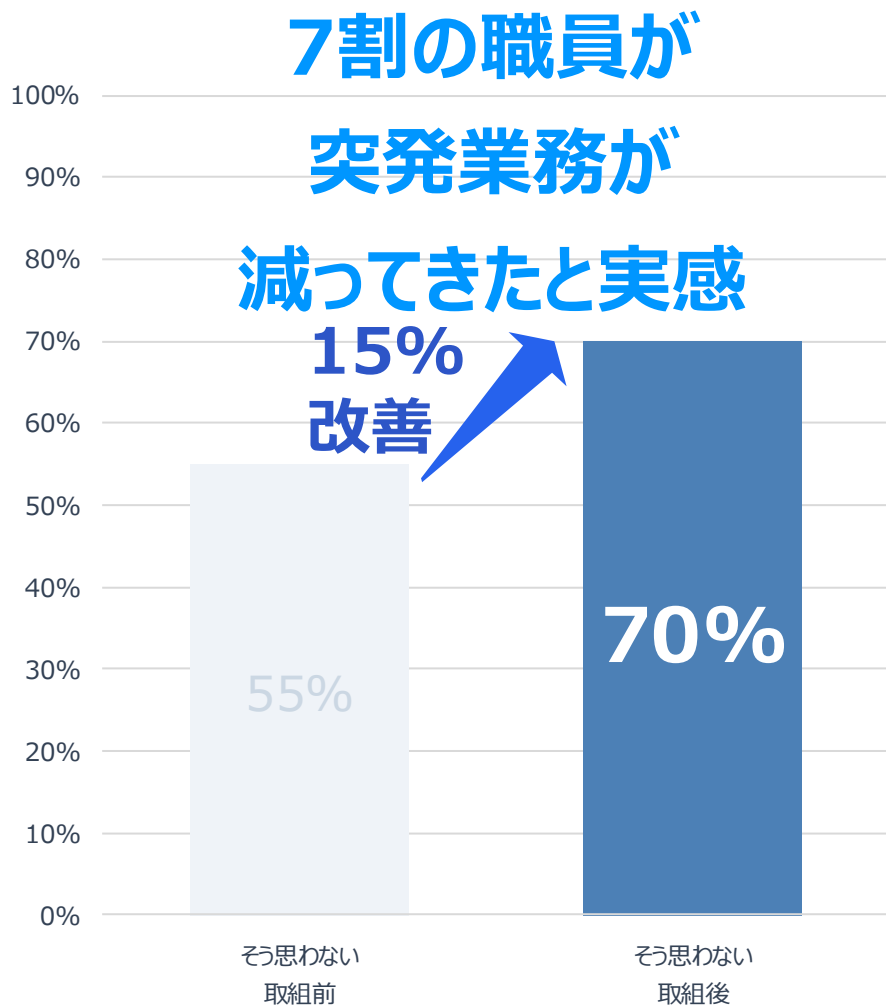
ケアの質向上にテクノロジーは効果的に
使えるものだと思いますか？

9割以上の職員が「業務改善」や「ケアの質の向上」に テクノロジーは効果的だと実感

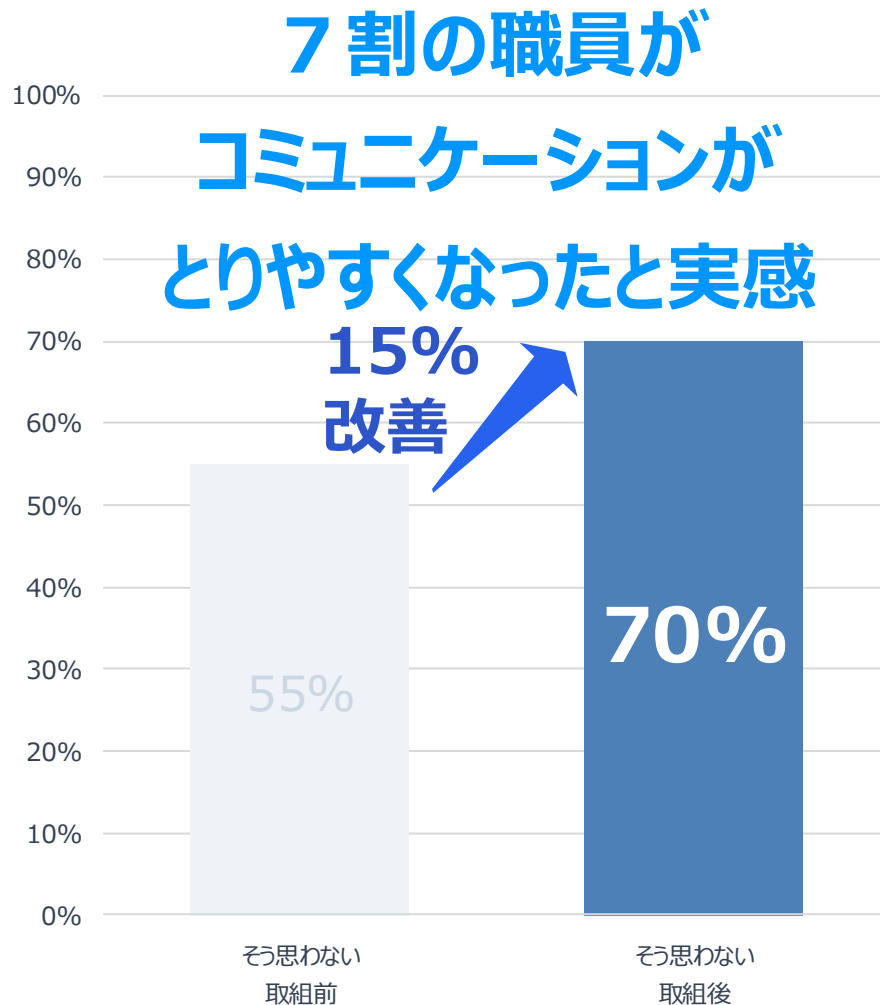


ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果②

突発的な業務は多くありますか？

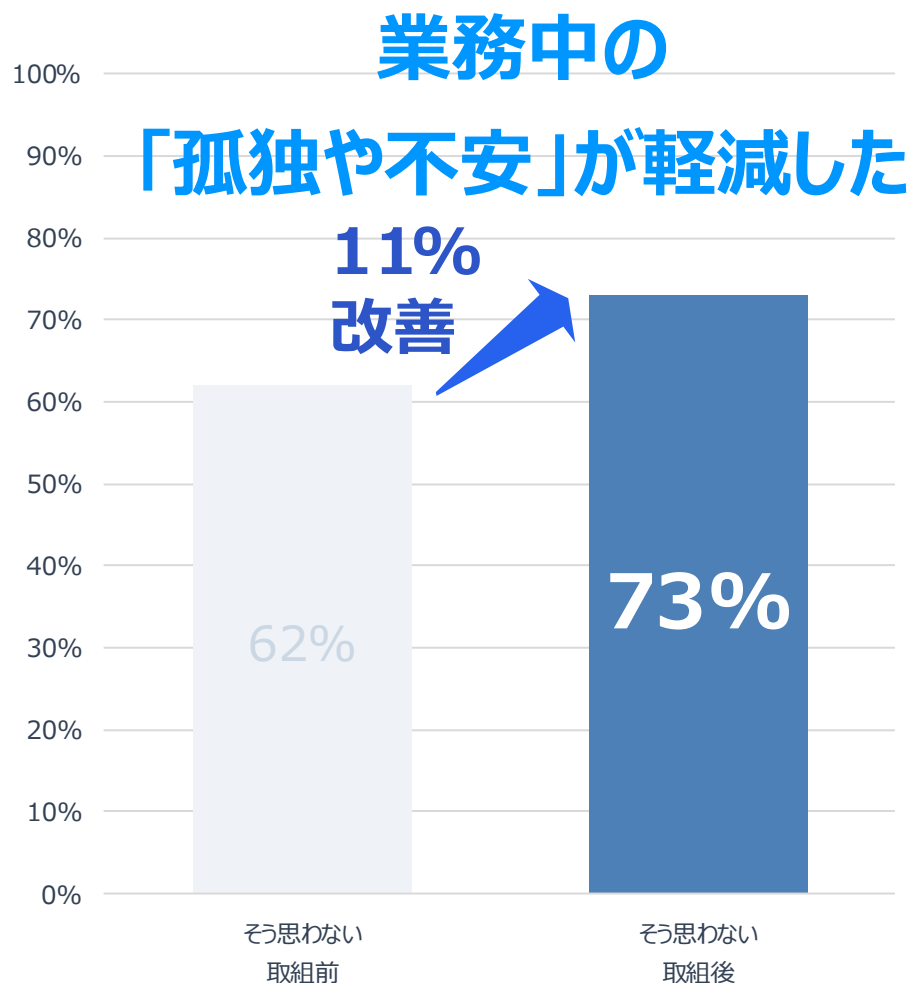


業務中にすぐ他の職員とコミュニケーションを取りたいのに取れないことはありますか？

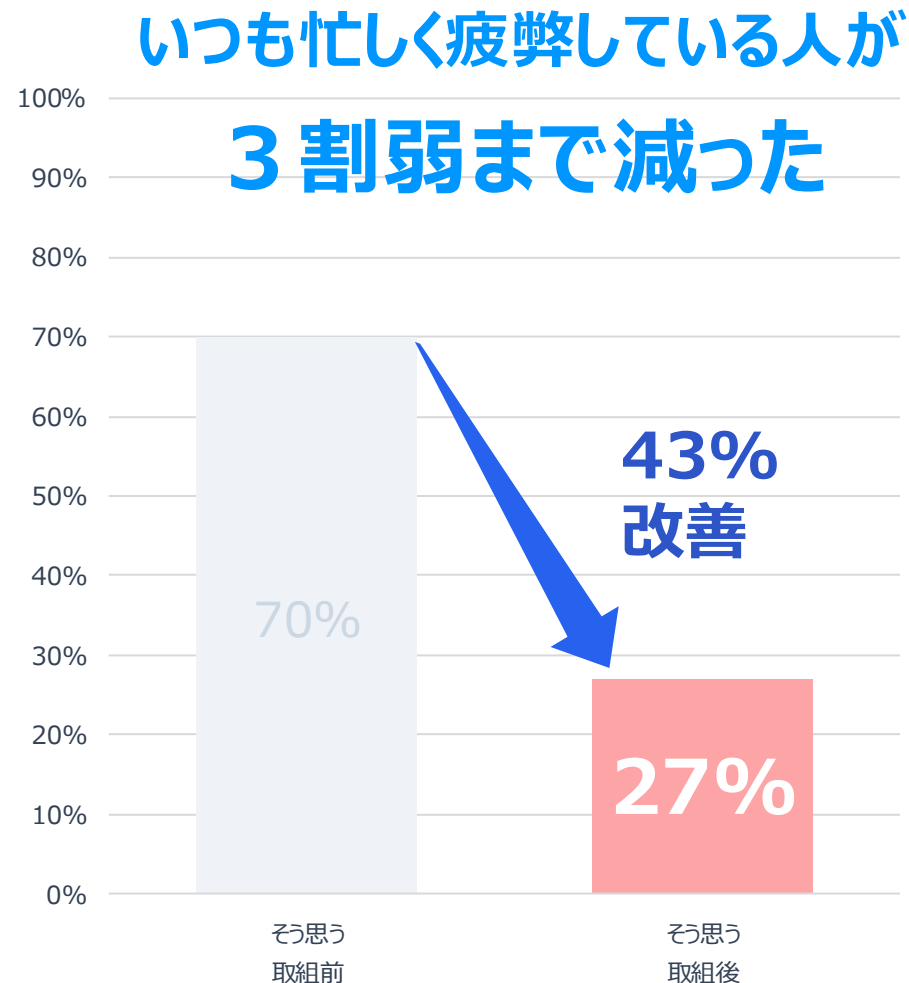


ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果③

業務を行っていて、孤独や不安を感じることはありますか？



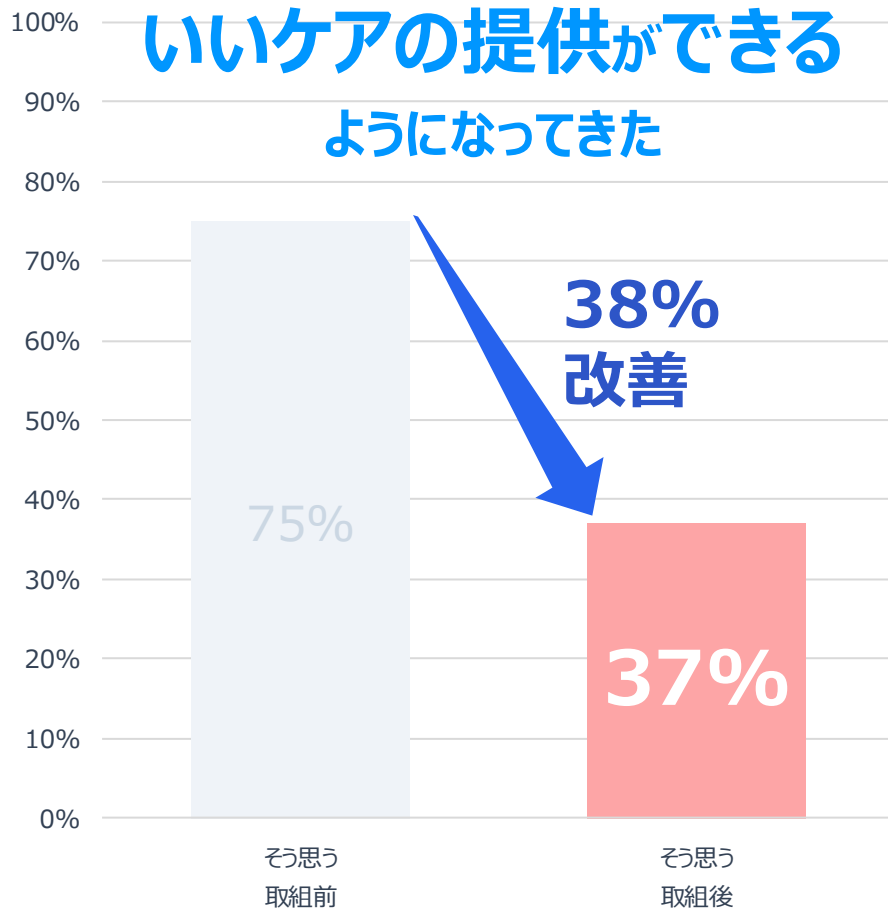
いつも忙しく疲弊していますか？



ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果⑥

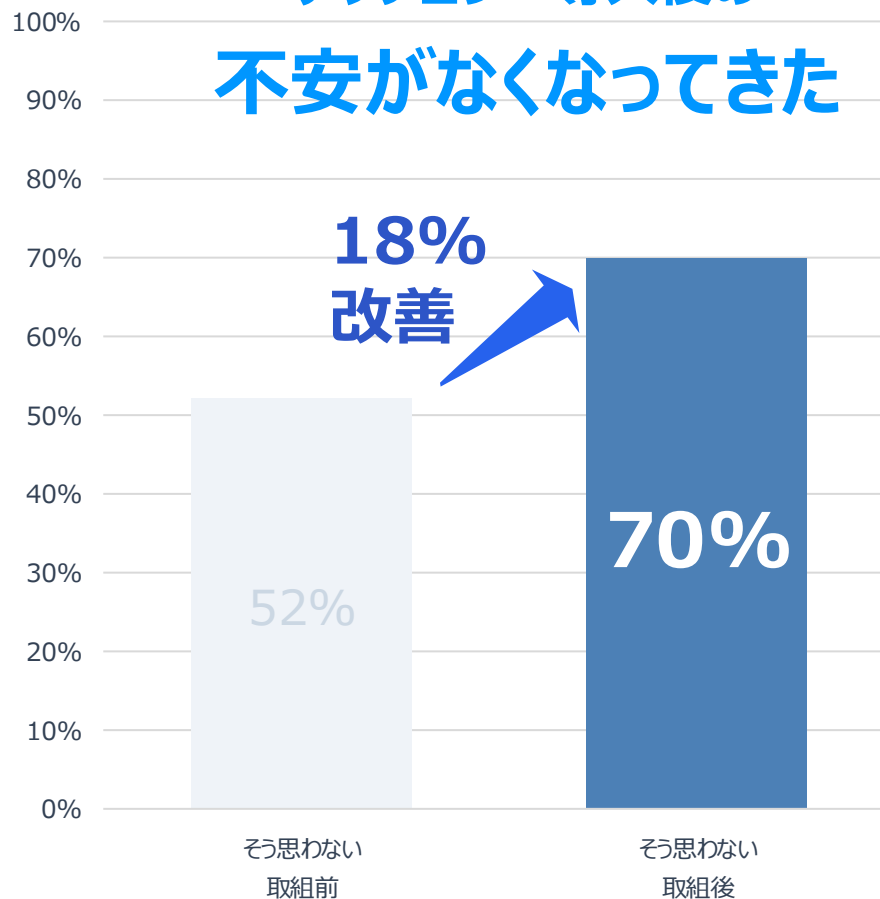
利用者に自分たちが思ういいケアを提供できていないと思いますか？

自分たちが思う
いいケアの提供ができる
ようになってきた



テクノロジーを導入することで今後どのようなことが起こるか不安を感じていますか？

テクノロジー導入後の
不安がなくなってきた

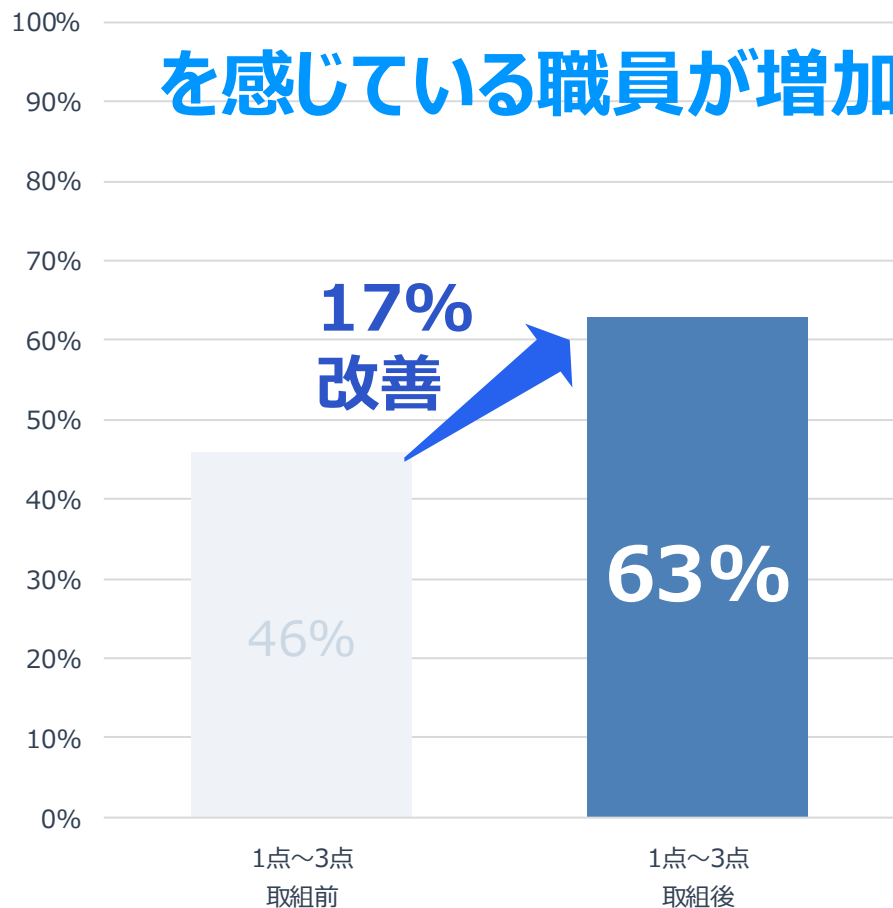


ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果⑦

モチベーションの変化【仕事のやりがい】

「やりがい」

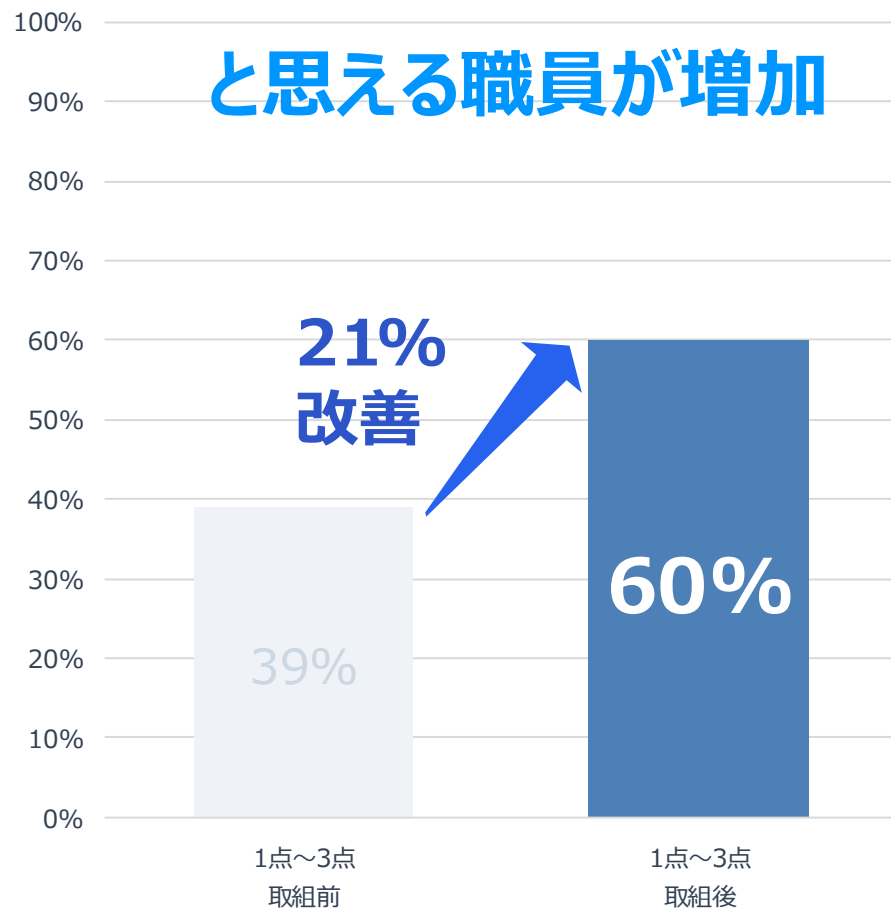
を感じている職員が増加



モチベーションの変化【職場の活気】

「活気がある！」

と思える職員が増加



ステップ5：改善活動を振り返ろう 成果⑧

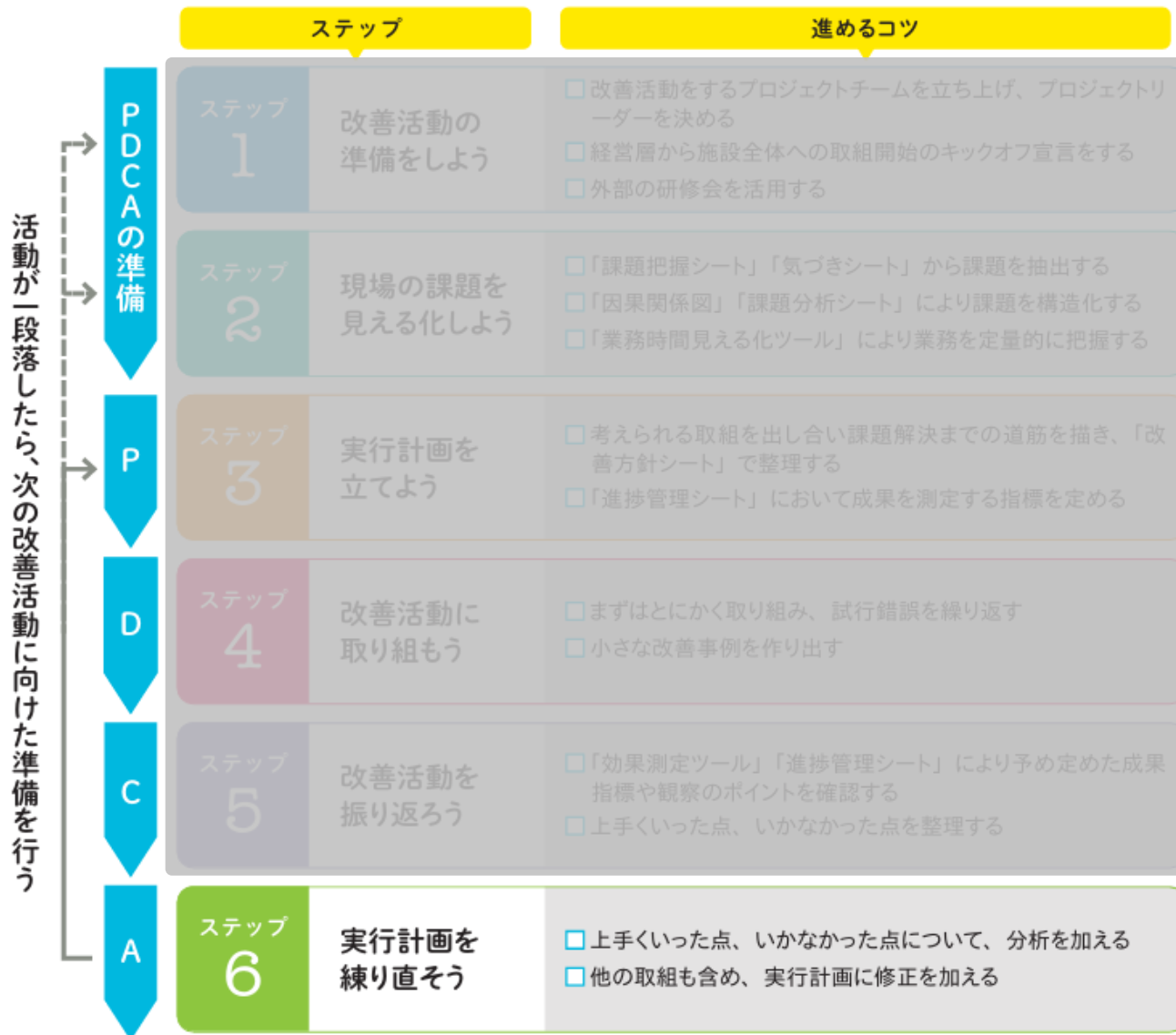
現場から見た成果

カメラ映像を通じて利用者の状況（寝返りを打っているだけ、体を起こしたがまた寝た等）を確認できるようになったため、**直接居室まで見に行く回数が減り、業務が楽になった**

夜間に様子を見に行くことで、かえって利用者を起こしてしまったり不安にさせてしまうトラブルが減少し、**職員の精神的負担の軽減につながっている**

急変の対応で、呼吸データやカメラの映像から、何があったのかを後から検証できるようになったことで、家族に対して**根拠を持って状況を説明できるため**
家族の納得感や職員の不安軽減につながっている

ステップ6



令和6年度改訂版
各サービス共通冊子

介護サービス事業における生産性向上(業務改善)に資するガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

ステップ6：実行計画を練りなおそう

新たな課題とありたい姿に向けた次なる取組み

新たな課題と残された課題

今回の取組により、職員が働きやすさ・やりがいを実感できる職場へと変化してきた

一方、余力が生まれたことで、職員の意識がより高度な「ケアの質」に向き、「質の高いケアとはどのようなものか」という認識のばらつきや、「ケアの属人化」による負担の偏りが課題として顕在化した



次なる取組み

今回「**職員負担の軽減とケアの質の両立**」を目指し業務の標準化を推進してきた

今回職員との対話を通して、共通の運用ルールに基づいてテクノロジーの活用ができたように、今後は「**ケアの価値観・やり方の標準化**」に焦点を当て「質の高いケア」を職員で認識を合わせながら実施していきたい

ケアの質を追求し、利用者にあった環境を作るために、センサーの基準もさらにブラッシュアップさせていきたい

まとめ

プロジェクトを通して感じたこと

プロジェクトを通じて得た学び、感じたこと

プロジェクトを通してみんなで話し合いを行い機器で対応する事で精神的不安の緩和が出来た上、事故を未然に防ぎ安全安心に業務に当たることが出来る様になって良かった

「自分たちは何に困っているのか」を職員と共有し
必要性を職員が想像できたからこそ
今回、職員がテクノロジーを使う意義を実感できたのだと思った



職員での対話の場面

経営者からのコメント



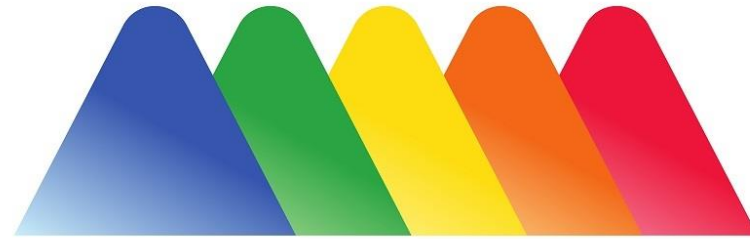
理事長
立川勉

今回、伴走支援でTRAPE様に関わって頂くことで、業務の棚卸しや課題の見える化を通して、真剣に職員一人一人が現在の課題点を見つめ直す良い機会となりました。

導入当初は私が旗振り役で進めようと考えていましたがやはりそうではなく現場主導で業務改善に取り組んでいくことの大切さをあらためて感じました。

今回の成果としては、リーダーのコメントにある通り、まずは精神的な不安緩和や事故等の未然防止につながることで実感できたことが成果だと思います。

今後はバイタルやセンサー検知、カメラなどの情報からいかに事故未然防止等につながるかを検証し、職員全員が標準化された対応により、利用者様の安全安心な暮らしを担保しつつ、職員のさらなる負担軽減につなげ、より一層業務効率化とサービスの質向上につなげていきたいです。



OKUYUMURA

社会福祉法人 奥湯村福社会